



蘭山翁画像

谷文晁画(95.2×34.2cm) 小野
蘭山賛(22.5×31.4cm)〔文化6
年(1809)〕製作 1軸 絹本着
色 <請求記号:WA21-29>

小野蘭山(1729~1810)は京都で生まれた。25歳で私塾衆芳軒を開き、71歳の時、幕府の要請で江戸に下った。以後、82歳で亡くなる直前まで医学館にて本草学の講義を続けた。生涯に指導した弟子の数は一千人を超え、江戸時代最高の本草学者であった。(詳細は掲載論文を参照されたい。)

この肖像画は、文化6年(1809)に、弟子の一人であった当時47歳の谷文晁(1763~1840)が、81歳の蘭山を描いたものである。画面の右下に「門人谷文晁沐手敬繪」「文晁」の落款がある。文晁はこれより7年前に有名な木村蒹葭堂(1736~1802)の肖像画(大阪市教育委員会所蔵。重要文化財)を描いているが、当画はこれと比較して、はるかにリアルで写実的である。知性を湛え気品溢れる老学者が恰も眼前に座しているかのようなのである。ちなみに、この年、文晁の下には16歳の渡辺華山(1793~1841)が入門している。この画は若き華山も眼にしてに違いない。

なお、賛は翌文化7年(1810)正月に蘭山が試筆したものである。蘭山は同月27日に没した。

(間島由美子)